

生活

家族 日月火
働く 水木金土
介護・シニア 家計
子育て 衣食住

健康

便潜血陽性 どんな精密検査を？

紙上
診察室

服部 昌志さん



Q

大腸がん検診の便潜血検査で陽性でした。便に血がまじっているとのことですが、どんな精密検査を受ければいでしょうか。子宮筋腫の手術経験があり、肥満です。
(女性・63歳)

A

最も一般的なのは大腸内視鏡検査です。内視鏡を肛門から入れ、直腸から盲腸までの全大腸を調べます。ポリープなどの病変が発見されたら組織を採って検査できますが、検査前に約二日の下剤服用が必要です。また、ごくまれですが、出血や大腸の壁に穴が開く穿孔などが偶発的に

内視鏡、CT…医師と相談

起きることもあります。最新の方法は、二〇二二年に保険適用となった大腸コンピュータ断層撮影(CT)検査です。肛門から炭酸ガスを注入して腸管を膨らませ、CT撮影を実施。得られた画像から三次元画像を作って診断します。飲む下剤量は二百〜八百ミリと少なく、偶発症の危険も極めてまれです。しかし、組織は採れず、五以下や平坦な病変の診断力はやや劣ります。超低線量ですが放射線被ばくがあります。注腸造影検査は、バリウムと空気を肛門から注入し、エックス線写真を撮る方法です。下剤は大腸CT検査と同様少ないですが、体を回転させ多方向からエックス線撮影をするため、放射線被ばくに配慮を要します。子宮筋腫を含むおなかの手術後は、腸管が癒着し、内視鏡検査では苦痛で全大腸を観察できないことがあります。高度の肥満だとCT、注腸造影検査の放射線量が増加します。大腸がんは早期発見で治療できます。検査はつらい印象がありますが、負担の少ない方法を消化器専門医にご相談ください。
(山下病院理事長)

紙上診察室への投稿を募集します。〒住所、氏名、年齢、電話番号(紙面では匿名)を書き、左面のあて先へ。